



コロナに負けない国際活動を展開しました

副学長・インターナショナルオフィス長 徳田 雅明

2020年度は、コロナ禍により振り回された一年でした。留学生の新たな受け入れは41名、昨年度新たに海外派遣した日本人学生数は0名となりました。インターナショナルオフィスと学部局は連携して、この危機をどのように乗り越えるかを検討しました。①デジタル技術を活用したオンライン留学や学習機会を作ること、②学内外のリソースを活用すること、③102ある協定校と密に連携し困難を共有すること、などを決めました。今回のニュースでは、そうしたコロナ禍での取り組みを紹介したいと思います。

その典型例としては、香川大学の海外教育研究拠点校であるブルネイダルサラーム大学と連携し、香川・ブルネイ国共通の重要な健康課題「生活習慣病」をテーマに実施した「Global Classroom」があります。コロナの影響下でも、海外協定校の学生と共修する機会を提供できました。前もって講義内容を学生に提供し学ばせる反転授業と、テーマを示し小グループ学習を行うなど、学生の自主的な学習を促す効果的な学習システムでした。

オンラインでの学習や研修は、対面で時間と空間を共有することはできませんが、クリックひとつで何百何千キロの距離を縮め、グローバルな活動に参加する機会を拡げました。例えば協定校であるチェンマイ大学と行ったWebinarでは、学生たちがコロナの問題を考え自分で何ができるかを発表ことに挑戦しました。医療Webinarによる研修も展開し両大学から多数参加しました。



グローバル・カフェをアクティブラーニング対応に改造しました

日本人学生と留学生のコミュニケーションの場であるグローバル・カフェにおいて、アクティブラーニングなど多様な活動を実施できるよう機能を高めるとともに、対面に加えてオンラインやハイブリッド形式でのセミナーやイベントの開催がしやすくなるよう、設備面での改造を行いました。

大型スクリーンを設置し、高輝度プロジェクターとオーディオシステムおよびインターアクティブホワイトボードを設置しました。机も全て一人用のキャスター付きのものに替え、多種のレイアウトが可能となっています。対面やオンラインでのクラスやイベント実施、研修会やセミナー開催などに活用し、グローバルスポットとしていきます。



<国際交流活性化の推進>

グローバル・インスピレーション・イニシアティブを開催

インターナショナルオフィスの新たな企画としてグローバル・インスピレーション・イニシアティブを実施しました。このイベントは、学生の海外留学機運を醸成し、地域のグローバル化に寄与することを目指しています。今年度は対面とオンラインの同時配信で2回開催しました。

○第1回 2020年12月9日(水)

第1部では、「今後の留学プログラムの展望」「生協の各種留学プログラムの紹介」および学生4名による「留学体験談」がありました。留学体験談ではそれぞれの留学の概要とともに、留学中に大変だったこと、経験から得られた学び、今後の人生にける想い等について発表がありました。

第2部では、グローバル展開をしている企業の講演として、リコージャパン株式会社の平井直樹香川支社長と渡辺毅氏に、国内と海外ビジネスの違いや「ニューノーマル時代に求められる人財とは」についてお話しいただきました。



○第2回 2021年1月18日(月)

～トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム～「香川地域活性化グローバル人材育成プログラム」派遣留学生帰国報告会と同時開催し、4名の派遣留学生たちが、留学で得た学びや気づき、留学先の国の現状、留学中のモチベーションの変化、今後の活動予定などを率直に語りました。「PBLによる授業のやり方を学ぶ中で、目指すキャリアの方向性が大きく変わった」「異文化を、理解することはできても、受け入れることの難しさとその克服する術を知った」などの発表が印象的でした。

日本貿易振興機構 (JETRO) の岡田春彦様には、報告会の講評と合わせて、グローバル展開に関わる経験に基づいた講演をしていただき、求められるグローバル人材像について語っていただきました。

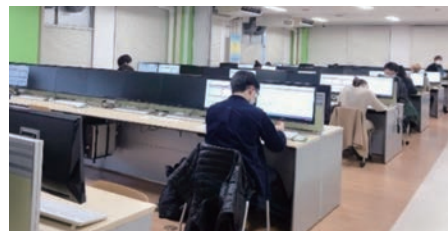


グローバル・カフェのWorkshop及びイベント

○TOEIC Speaking & Writingテスト

2020年10月5日～2021年1月21日の期間、TOEIC Speaking & Writingテストに向けた対策クラスをオンラインで開講しました。クラス受講者はテストを無料で受けることができます。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2021年1月に2回、2月に1回試験日を設け、計48名の学生が受検しました。



○第6回英語プレゼンテーションコンテスト

2020年12月5日(土)に英語プレゼンテーションコンテストを開催しました。第6回目となる今回は初めてテーマを設定し、発表者がこのテーマ「Youth in Society」に関して独自の切り口から内容を構成するという方式をとりました。新型コロナウイルス感染防止策を徹底的に実施しつつ、対面にて実施し、オンライン視聴も可能となるように同時配信も行いました。日本人学生16名、留学生2名の計18名が発表を行い、働き方、ジェンダー、リーダーシップ、教育等について論じるもの、広くグローバルな視点から若者が目指すべき価値観を論じるものなど、個性豊かな「観点」が際立つコンテストとなりました。

また、県立三木高校の生徒4名がインターナショナルオフィスのインターンシップ生として、コンテスト実施の補助にあたりました。



○第2回英語俳句コンテスト

Ian Willey大学教育基盤センター准教授の協力のもと、第2回英語俳句コンテストを実施しました。

2020年10月14日(水)にオリエンテーションを実施、57名がコンテストに参加しました。審査には在アメリカの俳人、Suzan Antolin氏とWilley准教授が当たりました。昨年度と同様に入賞作品はオンライン英語俳句ジャーナルに掲載されました。

入賞作品はこちらから↓

<https://www.kagawa-u.ac.jp/files/4716/1674/8558/2.pdf>

こちらのQRコードからも
閲覧できます→



○オンラインクリスマスイベント

2020年12月21日(月)に、GCSC (Global Café Student Committee) 主催によるイベントとして、オンラインのクリスマスイベントを開催しました。ドイツのクリスマスマーケットをテーマとした動画をGCSCが作成し、クイズ、ゲームや景品のくじ引き大会を実施しました。

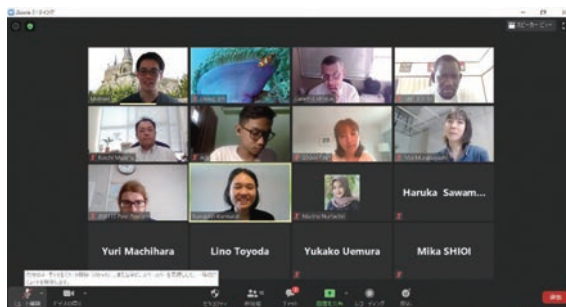
日本人24名、留学生5名のほか、過去に香川大学に留学していた2名がドイツから参加しました。



○オンライン・インターナショナル・ランチ

コロナ禍の中、学生間の交流を促進するため、インターナショナル・ランチをオンラインで、2020年度後期に11回実施しました。留学生と日本人学生が隔週ごとに一つのテーマについてPPTを使用して発表しました。留学生の出身地はフランス、インドネシア、ブータン、タイ、バングラデシュで、ほとん

どの発表テーマは自国の紹介に関してでした。日本人学生の発表は日本文化の他に、海外留学の経験についてが多かったです。参加者は各自でZoomを接続してランチを食べながら発表を聞きました。参加者の延べ人数は101名でした。そのうち、留学生は63名で、日本人学生は38名でした。



<外国人留学生対象行事>

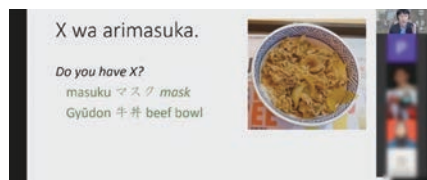
オンラインさめきプログラムの実施

2020年10月から11月にかけて、海外の3つの協定大学を対象に「オンラインさめきプログラム」を実施しました。「さめきプログラム」は、インターナショナルオフィス留学生センターが受入部局となり、協定校から日本語能力や専門分野を問わず交換留学生を受け入れるプログラムですが、「オンラインさめきプログラム」は、オンラインで本学及び「さめきプログラム」の紹介をするイベントです。

2020年10月16日(金)、10月23日(金)に国立嘉義大学(台湾)、10月21日(水)、10月28日(水)にチェンマイ大学(タイ)、11月18日(水)にディポネゴロ大学(インドネシア)を対象に実施し、多数の学生が参加しました。また、「さめきプログラム」の修了生や、本学在学中の留学生も実施に協力してくれました。コロナ禍終息の暁には多くの留学生が本学に留学してくれることを願っています。



嘉義大学にて参加中の学生たち



日本語体験授業の様子

2020年度10月期さめきプログラム・日本語研修コース修了式

コロナ禍前から本学に在籍し、10月より唯一のさめきプログラム11期生となったフランス人学生と、4月渡日予定で10月半ばと12月末にようやく渡日できたエチオピアとブルンジからの国費日本語予備教育学生の計3名が、2021年2月17日(水)と一緒に修了式を迎えました。本プログラム／コース在籍中の授業はオンライン中心でしたが、八栗寺を訪問し日本文化を体験する機会もあり、渡日後あいうえおから始めた学生も日本語を交えた修了スピーチを披露する等、短期間の限られた状況下ではあっても充実した学びができたことが窺えました。



学長主催外国人留学生オンライン新年会

2021年1月28日(木)、学長主催外国人留学生オンライン新年会が開催され、本学の外国人留学生、教職員、地域の方々あわせて約80名が参加しました。

例年であれば、12月に学長主催の留学生交歓会を催して外国人留学生を励ますとともに、留学生相互、教職員及び地域の方々などの交流の輪を広げる機会としていたのですが、今年度はコロナ禍のため一同に会して開催することを避け、1月に新年会として実施しました。四つのキャンパスごとに設けた会場をオンラインで接続し、各会場では新型コロナウイルス感染防止策を徹底しました。

留学生の司会進行のもと、筧学長及び徳田副学長による激励の



ことば、留学生代表の挨拶のあと、メインプログラムとして、留学生一人一人からの自己紹介と学長・副学長との記念写真撮影が行われました。教職員からは留学生に対して、ロン留学生センター長の尺八演奏に合わせて日本の唄（「富士の山」「ふるさと」）が、さらに学長からは「お年玉」として大学グッズセットがプレゼントされました。



外国人留学生等作文コンテスト

本学が事務局を務める香川県留学生等国際交流連絡協議会主催による第17回作文コンテストが実施されました。

今回は、社会状況を鑑み、「新しい生活様式」と「SDGs / 環境」を意識したテーマ設定を行いました。また、留学生だけでなく研修生も応募できるよう門戸を広げ、応募締切も当初予定より延長して募りましたが、コロナ禍で県内に在学・在住の留学生・研修生が少ないこともあり、例年よりは応募総数は少なめで、研修生からの応募もありませんでした。ですが、応募者の所属学校や出身国は多岐に渡り、日本語レベルに関わらず力作が揃ったのが印象的でした。

入賞者の表彰式を、3密に配慮した少人数かつ短時間の対面で2021年3月5日に開催できたのは幸いでした。協議会会長の寛学長にもご参加いただき、受賞者の皆さんには心に残る式になったものと思います。

入賞作品集を製本する際には、別項にある地元三木高校生がデザインしたイラストを表紙等に使用し、国際色豊かで華やかな冊子ができました。この作品集も、入賞者の皆さんにはいい記念となったことでしょう。



<日本人留学生増加のための取り組み>

コロナ禍での「留学」：オンライン留学相談とオンライン英語研修

海外渡航ができない状態が続いていますが、留学への関心は高いものがあります。毎週火曜日実施のオンライン留学相談では個別に学生さんの話を聞き、コロナ終息後の留学プログラムの案内や、今しておくべき準備などについて相談にのっています。後期は10名の学生の申込みがありました。

また、オンラインでの留学として、夏季に続いて、香川大学の協定校である西オーストラリア大学英語教育センター (UWA CELT) が実施する英語研修 (2021年2月8日～3月12日) を募集し、2名の学生が受講しました。



月曜から金曜の午前中2コマ、5週間にわたってオーストラリアのパーズにいる先生の指導で英語をしっかりと学ぶプログラムですが、水曜と金曜は現地で学ぶ各国からの学生との交流時間が設けられました。Zoomで現地の見どころをライブで紹介するなどしてくれ、研修を通じて新しい友人ができ、英語学習のモチベーションが高まったそうです。



<他機関との連携活動>

他機関との連携活動：JICA日系社会研修員受入事業の実施

2020（令和2）年10月30日（金）から12月16日（水）までの2か月弱、2020年度日系社会研修員受入事業「小規模食品ビジネスの開発（食の安全：調理と管理・製品開発と販売促進・ビジネスモデル開発のためのバックキャストिंग）」を実施しました。この事業は、本学農学部のパーター・ルーツ准教授が代表となり、インターナショナルオフィスの高水準教授と連携して実施されました。ブラジルから4名の日系社会研修員を受け入れ、小規模食品ビジネスの開発に必要な知識と技能を提供しました。

昨年度は研修員がアルゼンチンとブラジルから渡日しましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、すべてオンラインで実施しました。本学教員が提供する食品安全や食品加工等に関するビデオ講義の他、学内外における各種実習・見学もビデオ講義で提供され、研修員は食の安全、製品開発、ビジネスモデルなどについての知識を習得しました。最終日に本学農学部と研修員をオンラインでつないで、今後のビジネス展開の計画についてのディスカッションが行われ、うどんを用いたビジネスへの言及がありました。その後修了式が行われその模様は瀬戸内海放送で放送されました。



ビーチクリーン活動

2020年度は庵治町と津田の松原でビーチクリーン活動を実施し、海の環境、海洋汚染、マイクロプラスチックの影響などについて認識を深めました。

①庵治町の海岸でのビーチクリーン活動

インターナショナルオフィス教員のロンが会員となっている「庵治なビーチクリーン実行委員会」主催で、3回のビーチクリーン活動を実施しました。第1回（2020年7月26日）は鎌野海岸で、18名が参加しました。漂着したテングサを話のネタにして、ところてん作りのミニ講座をしました。第2回（9月27日）は高尻海岸で、参加者は30名でした。高尻の地元住民と共同で海ゴミ拾いをした後、地区公民館で交流親睦会があり、住民の方々が作ってくれたところてんを食べながら、グループに分かれて海の環境について話し合いました。第3回（11月23日）は「歯ART美術館」前の海岸でした。美術館のご厚意で、参加した31名は無料で美術館に入館させていただきました。この回では「ART」をテーマに設定し、ロンが瀬戸内海の水の中写真を見せながら、海中の美しい生物の講演をしました。また、参加者による、漂着物を再利用したアート作品の紹介もありました。現在、第4回に向けて、オンラインで海外とつないでビーチクリーン活動をする企画を立案中です。



②津田松原海岸でのビーチクリーン活動

2020年10月18日に、学生16名（留学生13名、日本人学生3名）を引率して、香川県の津田松原海岸でのビーチクリーン活動をしました。高松東ライオンズクラブの協力や支援を得て、およそ2時間の清掃活動をしました。海岸ではでマイクロプラスチックが多かったことなどについて話し合いをしました。

<地域との連携・交流>

三木高校生インターンシップの受入れ —最終成果報告会

インターナショナルオフィスにおいて三木高校生4名をインターンシップ生として受入れ、2020年度8月から2月まで月一回の活動を実施してきました。その成果について、生徒たちが発表する報告会を2021年3月25日(木)にグローバル・カフェにおいて実施しました。

発表の導入部分は英語で話し、活動を通じて何を学び、自分がどう変化したかについてしっかりとした内省の跡がうかがえる発表でした。三木高校の先生からの「どのような生徒にこのインターンシップに参加してほしいと思うか」という質問に「全生徒に参加してほしい」との答えがあり、インターンシップの意義を実感していることが伝わりました。



留学生への支援

2020年11月20日(金)に、有限会社渡辺エンタープライズ様※(野菜、果物の卸売業を経営)からは野菜と果物、そして観音寺市一ノ谷総合コミュニティセンター様からは新米150kgのご寄附をいただきました。

異国においてコロナ禍の影響を受け、アルバイト収入や母国からの仕送りも減少している留学生からは「大変な時期に支援を頂き本当にうれしいです。今後も感謝の気持ちをもって頑張ります」と感謝の声が寄せられました。

※9月以降、月に1回程度のペースでご寄附いただいています。



<留学生の声>

さめきプログラム13期生及び日本語研修コース学生の修了スピーチより

4ページで紹介した3名の修了スピーチから抜粋してご紹介します。

Paul Poulain(フランス、さめきプログラム11期生)

私は日本が大好きで日本語が上手になりたかったです。そのため香川大学のさめきプログラムが気になりました。さめきプログラムに参加したいとロン先生と高水先生に連絡したら受け入れてくださいました。コロナのため留学生が少なかったのも、初めは一人でした。ちょっと寂しかったのですが、マンツーマンで授業は面白かったです。途中からキフレさんとスティーブさんが参加しました。感謝します。

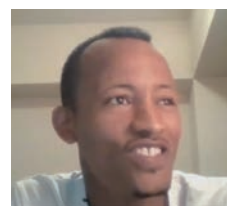
日本で過ごした時間は私にとって貴重なものでした。楽しい時間を共有する仲間ができました。

将来ドクターコースに進みたいと思っています。私はフランスと日本の大学と協力して研究したいです。



Kifle Hailu(エチオピア、日本語研修コース)

高校生時代から私が持っていた日本のイメージはレベルが高い技術です。それに興味がわき、私の国の大学で5年間機械工学の勉強をする時日本語も2年間ほど勉強し、日本に留学するという夢を実現しました。2020年10月16日



に日本へ来ましたが、皆さんで存じのようにコロナのせいでホテルで2週間隔離されました。これからどうなるかと不安でした。

実は、香川大学以外に他の二つの大学からも受け入れるという手紙を受け取っていました。日本で他の大学へ行く可能性がありましたが、一番に選んだのは香川大学です。なぜかといういくつかの理由がありますが、一つは香川大学の留学生センターの素早い対応に満足したからです。留学生センターの皆さんに心から感謝しております。

Steeve Akumwami (ブルンジ、日本語研修コース)

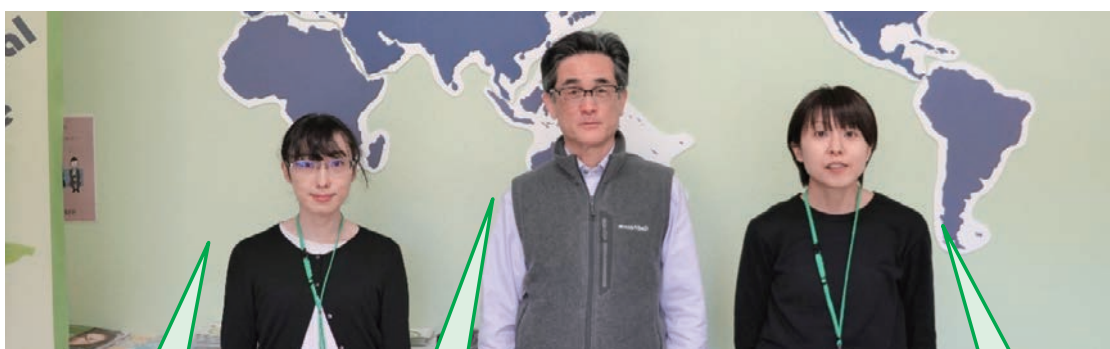
わたしは アクムアミ スティーブです。ブルンジから きました。12がつにほんへ きました。かがわだいがくに きて うれしいです。かがわの ひとは しんせつです。いま やしまりように すんでいます。

わたしの ぶしょは いがくぶですので、4がつから みきちょうのりょうへ い きます。(中略)

I would not end my speech without wishing my dear student brothers the success in their respective fields. The moments we have spent together will serve as a cord that will bind us wherever we will be.
ありがとうございました。



インターナショナルオフィスからのお知らせ



町口 菜摘 (留学生担当)
学びのサポートができる職場にご縁があり、心から嬉しく思います。
困ったことがあれば心置きなくお尋ねください。

大麻 敬洋 (留学生担当)
COVID-19のため移動が制限されていますが、いまできることをお手伝いできればと思います。

井上 歩美 (国際交流担当)
少しでも皆さんのお役に立てるように頑張りたいと思います。

香川大学
インターナショナルオフィスニュース
第24号 2021年(令和3年)5月20日

香川大学インターナショナルオフィス
〒760-8521 高松市幸町1-1
Tel : 087-832-1318 Fax : 087-832-1192
E-mail : soryucet@jim.ao.kagawa-u.ac.jp
URL : <https://www.kagawa-u.ac.jp/kuio/>
留学生センターfacebook
URL : <https://www.facebook.com/KUISC>
グローバル・カフェfacebook
URL : <https://www.facebook.com/GlobalCafeKagawaUniv>